或問　WAKUMON　159
No.11,（2006）pp.159-162

関西大学中国語デジタルコンテンツの現状

氷野善寛

関西大学では、研究と教育の双方の立場から中国語関連資料のデジタル化ならびに教育リソースのコンテンツ化を進めている。

現代中国語研究の立場からは、2004 年度の「現代中国語コーパス」[1]の設置が挙げられる。コーパス（语料库）というのは個別言語やある特定の作家や作品のテキストを網羅的に集めてデータベース化し、言語研究や、言語教育に用いられるものであるが、関西大学では、現代中国語という特定言語を網羅的に検索するために、独自の検索システムを搭載したコーパスを開発し、一般向けに「現代中国語コーパス」として、人民日報の数年分のデータを公開している。同時に学内向けとして、著作権の切れた作家の小説を中心としたテキストをデジタル化し、同コーパスの拡充を行い、現代中国語の語彙研究を中心とした研究分野で活発に用いられている。

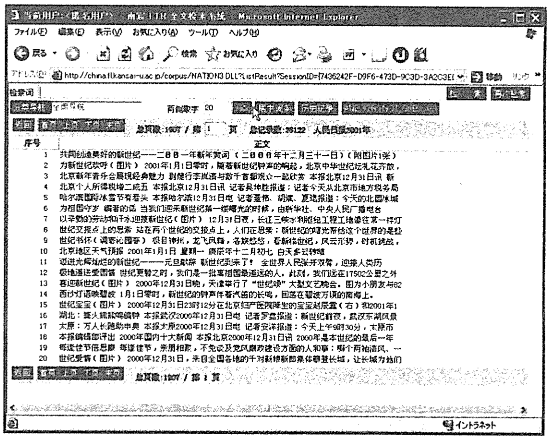

図１　現代中国語コーパス

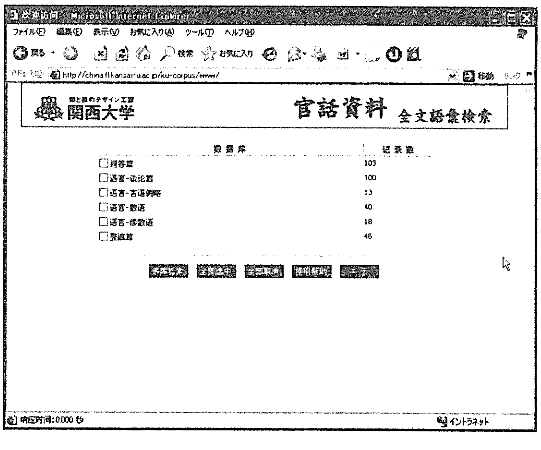

図２　官話資料全文検索

また、近代語研究のアプローチとして、昨年度より官話関係などの 19 世紀の資料のデジタル化ならびにネットを介した全文語彙検索システムの構築を模索している。現在試験的に「官話資料全文語彙検索」として『語言自邇集』や『問答篇』などをデジタル化して、「現代中国語

[1] 現代中国語コーパス　http://china.fl.kansai-u.ac.jp/

コーパス」と同様のシステムを用いたコーパスに組み込み、全文検索を行えるようにしている[2]。しかし全文検索システムを搭載しているとはいえ、本来、現代中国語を処理するのに適したシステムであるため、必ずしもその目的とするところは一致しない。そこで今年度より、より具体的にこの時代の資料の文献のデジタル化、ならびに関連資料のデジタル化を行うことができないかを模索している。今後、デジタル化を行うことを予定にしている資料としては、『初學指南』『官話指南』『官話類編』などの官話関係資料から、琉球や朝鮮で刊行された官話関係のテキスト、『華英通語』『英語集全』『英字入門』のような英語学習に用いられたテキストなどがある。

この時代の資料を扱う上で、特に問題となるのが、異体字問題や、版の違いによる資料の内容の異なりである。特に後者については、『語言自邇集』を例にすれば、初版から三版まであり、それぞれの版でテキストの異同がある。こういった版の違いをどのようにデータベースに反映させるか、考慮が必要である。以上のことを含めて、インターフェースや文字処理の方法を検討した上で、語彙接触の研究に必要となる基幹資料のデジタル化を行いたいと考えている。

このほかに、関西大学で利用できるデジタルアーカイブとしては、関西大学アジア文化交流研究センター[3]が2005年度より導入している電子版の『中国基本古籍庫』『四庫全書』『四庫存目』[4]がある。この三つのデータベースを用いれば一般的な古典資料は、ほぼ網羅的に検索することができる。

図3 中国基本古籍庫

ただし同データベースは近代東西言語文化接触研究会が取り扱う分野範囲の文献資料については、完全にカバーできていないのが現状であり、上述したように、この分野の資料のデジタル化と集約を行い、データベースに組み込んでいくことが必要であると思われる。

教育的な立場としては、上述の「現代中国語コーパス」が、以前から語彙学習や上級の中国語クラスで利用されている。また、昨年度より CEAS という LMS（Learning Management

2 ただしこの時代の文献が繁体字資料であるのに対して、現代中国語コーパスがGB2312対応である。ため、簡体字化したものしか利用できない。

3 関西大学アジア文化交流研究センター http://www.csac.kansai-u.ac.jp/

4 各データベースは関西大大学アジア文化交流研究センターのネットワーク内でのみ用いることができる。

System）をデジタルコンテンツ利用の中心に位置づけ、e-Learning 教育を展開している[5]。CALL システムのみを用いた教育を、従来型の変化のないコンピュータ教育として位置づけ、LMS を用いた教育を、ネット教育と対面式授業との間に「人的要素」を介した新しい教育方法として位置づけをし、利用を促進している。主な利用クラスは第二外国語クラスで、授業後にネットテストや復習教材[6]を配信している。専門教育においても、授業後の資料配布や、掲示板を利用した論議や課題提出に利用されている。また 2006 年 9 月からは、北京外国語大学との間で行っているサイバーレクチャー[7]でも CEAS を利用することにより日本側の学生と教員、そして中国側の教員を CEAS という「場」を通して遠隔授業を側面から支援する試みを行う予定である。

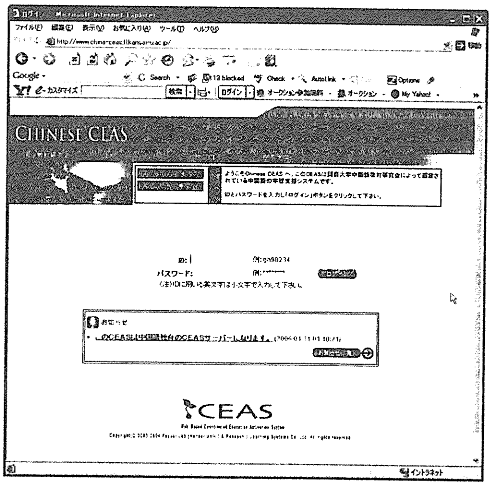

図 4　CEAS のログイン画面

最近ではポッドキャスト（Podcast）というパソコンと iPod を用いた新しい試みを行っている。ポッドキャストというのは、Apple 社から販売されている MP3 プレーヤーの「iPod」と「Broadcast（放送）」を組み合わせた造語で、簡単に言えば、ネットラジオを iPod で聴くといったものである。iPod がなければ聴けないというものではなく、パソコンがあれば聴くことができる。一般的なネットラジオとの大きな違いは、ラジオであれば決まった時間にしか配信されず、その時間にラジオの前に座っていないと、録音しない限り聴くことはできない。しかし、ポッドキャストの場合は、あらかじめ聞きたい番組をパソコンに登録しておけば、新しい番組を自動的に受信してくれるところにある。これは発信者側がポッドキャストとして番組を配信する場合、更新情報はRSS という形式で生成され、その RSS 情報を受信者側の専用ソフ

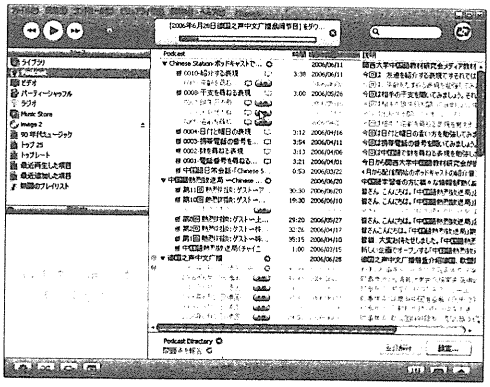
図 5　iTunes でポッドキャストを受信

[5] 詳細な情報は中国語教材研究会ホームページをご参照のこと http://we.fl.kansai-u.ac.jp/

[6] 学習用コンテンツについては主に大学院生が TA として、担当教員から要望を聞きながらデジタル化している。

[7] ビデオ会議システムを用いた関西大学の遠隔授業の通称。今年度は月に 2 回行われている。

トが自動的に読みにいく。そして更新情報から足りない情報を自動的に配信サイトからダウンロードしてくるのである。このためネットラジオと異なり、配信されている番組を時間に捉われず、受信し視聴することができるのである。またパソコンで受信した番組を iPod に転送し、視聴することも可能である。また多くのポッドキャストが無料で配信されており、語学教育関連の番組も多数配信されている。

関西大学では「Chinese Station～ポッドキャストで中国語」というビデオポッドキャストの番組を制作し、配信している[8]。また、このポッドキャストで配信できるのはラジオのような音楽データやビデオだけではなく、さらにテキストファイルや PDF ファイル、画像などさまざまな形式のファイルを同時に配信することができ、パソコンで受信することができる。また、一部のファイル形式は iPod でも閲覧することが可能である。そのため教育分野だけではなく、研究資源の配信や、デジタル化された資料の配信ツールの一つとしても用いることができるのではないか、と今後の発展が期待されるところである。

図6　中国語ポッドキャスト

---

[8] ポッドキャストで中国語　http://we.fl.kansai-u.ac.jp/podcast/